



アヴァレー湖周遊・キロンボ温泉旅行

9月25日から27日まで県人会恒例の会員慰安親睦キロンボ温泉旅行が行われた。今回はアヴァレー市近郊のジュルミン湖畔周遊とパウール近郊のキロンボ温泉旅行である。

一行は34名で、朝8時すぎリベルダーデを出発。途中カステロブランコ街道で高橋副会長夫妻を乗せ一路アヴァレー市（約300キロ）へと向かう。



県人会寄贈の太鼓

午後1時前湖畔着。遊覧船に乗り込む。この日は風が強く寒かったが約2時間湖畔を周遊、湖岸一帯は別荘地で豪邸が建ち並んでいた。

午後5時頃キロンボ温泉に着き、各々温泉に浸かり旅の疲れを癒した。2003年、会員の高橋万右エ門さんが作製し、ホテルに贈った太鼓

が飾られており懐かしかった。

温泉の特効はラジウムの放射線に依って細胞の新陳代謝を良くし体内細胞を若返らせるとある。神経痛リュウマチ、関節炎、皮膚、肌の若返り、胃腸、便秘、肝臓、糖尿、腎臓、胃潰瘍、高血圧などの回復に効果があると書いてあり、ホテルのホールには鉱泉水があって常時飲める。

湯はスベスベした鉱泉で敷地の地下100mから汲み上げ、ボイラーで温める方式である。

キロンボは、昔傷ついた動物が湧き出ている湯に浸って



観光船



ホテルの前で記念写真

いたのを原住民が見つけた。1960年代初めまではドイツ系の人が湯治場として利用、豪華な付まだったと云う。

後に温泉好きの日系人グループが買取り、広めたのがキロンボ温泉で今は個人経営となっているそうである。

翌日朝食後、温泉に入ったり近辺を散歩、大きな池の魚釣り、またゲートボールをと楽しんでた。

昼食後はそれぞれ自由行動。夕食後カラオケホールで歌ったりダンスで楽しんだ。

3日目早めの昼食は、この日マリリアから到着した人々50名程と共にする。この団体は昼食と温泉だけ利用し日帰りだと話していた。温泉ホテルに別れを告げ一路サンパウロへ。出発点であるリベルダーデに着いたのは夜8時だった。

お知らせ

★「忘年会・会員交流懇親会」

は、12月16日（日）午前11時より行われます。

★「訃報」

9月21日早朝、県人会相談役・渡辺保氏（享年93歳、胆沢町出身）が亡くなられ、同日ジャリヌ市の墓地に埋葬されました。元気な頃は豪傑笑いで有名な人でした。ご冥福を祈ります。

★JICAの研修員募集

JICAでは、2008年度の研修生を募集しております。多種多様な学科があります。問い合わせ申込みはJICA（011）3251-2655
mail: jicabrs-pgyomu@jica.go.jp

留学生・研修生募集

県人会では2009年度留学生・研修生を募っております。資格は日本語能力試験2級証書が必要です。申込み、問い合わせは県人会まで・・・

県人会創立 50 周年の募金お願い

先の会報で、創立50周年費用特別寄付として、会員皆様には、最低額300レアイスの協力をお願いしますと記しましたが、各々の事情もあり、強制するものではない事をご理解頂いて、ご協力をお願いしたいと思います。

県人会では、ご入金の手間を省くため、最寄りの銀行で振り込める銀行振込用紙を用意しました。

ボレット（振込用紙）には、当方では金額を記入しませんから、皆さんで協力出来る金額を記入して頂きたいと思います。「一括支払い」と「分割払い（6回）」用紙と主な式典関連事業・予算書を添えてお送りしますので宜しくお願い致します。

用紙は6枚ありますが、1枚目は一括お支払いと1回目の分割用紙となります。2回目からは分割金額を記入して下さい。お支払いに関する疑問は県人会までご一報下さい。

母県からは連増県知事をはじめ議長や関係者、海外県人会、県人会賛助会員、また多くの慶祝団員皆様の参加を予定しております。

式典や関連事業、また予算書をご理解頂きまして、改めてご支援をお願い申し上げますので、宜しくお願い致します。

会長 千田曠暁

カウントダウン

創立 50 周年
まで **07** ヶ月

☆創立式典関連日程 2008年6月

- * 14日(土) 慶祝回歓迎前夜祭
 - * 15日(日) 50周年記念式典、記念祝賀会、岩手芸能公演（民謡・民舞）
 - * 16日(月) 第2回海外県人会サミット
 - * 17日(火) 移民の父「第3代駐伯日本国杉村濬公使」墓碑改修・披露式（リオ・デ・ジャネイロ、移民100周年特別事業）
- 「芸能使節団」の皆さん方には、式典公演後福祉施設慰問や地方都市公演予定です。

東北ブロック演芸祭賑やかに！



第24回東北6県・北海道親睦演芸祭が、9月2日（日）、宮城県人会館で行われた。今年の担当県は秋田。プログラムは開催県の秋田県人会長の挨拶で開会。民謡の部から始まった。

岩手は野崎寿美子、松田恵美子、久保時男の3氏。昼食後は童謡の部で富田サブリナ、宮村はるみさん、続いて歌謡の部 80 歳以上で末広ハナ、79 歳まで山口よしと、69 歳まで渡辺アキ子、59 歳まで渡辺玲子、45 歳まで渡辺正、30 歳まで実平サツシャの皆さん。

入賞者は民謡の部5位に久保さん、童謡3位に宮村さん、5位に富田さん、80 歳以上2位に末広さん、79 歳までの部1位に山口さん、59 歳までの部2位に渡辺さん、その他の皆さんが熱唱したお蔭で、岩手は近年下位クラスで低迷していたが総合で2位に躍進した。

各県の会長の部では会長や会長代理が自慢のノドを披露。いずれも芸達者で会場の喝采をあげた。

総合優勝は担当の秋田県、以下岩手県、北海道、福島県、宮城県、山形県、青森県の順であった。

各県人会ブロックの青年部は、昼食を提供、毎年青年部の活躍には頭が下がる思いである。

皇太子さま

100周年記念式典にご臨席決定！

来年6月移民100周年記念式典に、皇室からの訪伯を望んでいた日系コロニア。10月16日宮内庁が皇太子殿下の訪伯を発表した。

殿下は浩宮時代の1982年ご来伯以来2度目、各地で開催される100周年記念式典にご出席の予定。

邦字紙は、各日系団体の談話を掲載。手放しで歓迎の意を伝えている。岩手の皆さんもお出でになりませんか。

「雷神焼ソバ祭り」盛況！



10月21日（日）、県人会太鼓教室「雷神」（代表昆野ワシントン）初の第1回「焼ソバ祭り」が、県人会後援で午前11時からホールで行われた。

太鼓教室「雷神」は発足2年余、毎週の練習の成果が実り他団体などから出演の聲がかかり、先日エンブー市で開催された花祭りに特別出演。数人で始めた太鼓教室が現在25名を数え喜ばしいかぎり。だが、肝心の太鼓数が足りないうえ、傷みだした事で、活動費はもとより保全修理、太鼓購入などの資金を自分たちで捻出しようと企画。こうして、グループ初の催しは念願叶って成功。

当日は焼ソバ300食、ギョウザ100皿、飲物など完売した。焼ソバはブラジル人にも人気の的で、週末リベルダーデ区に来るブラジル人も相当数いた。

午後2時から、琴、バンド演奏、太鼓のショーなどがあり賑わった。

「雷神」・エンブー花祭りで演奏

9月30日（日）、県人会太鼓「雷神」は、エンブー市（サンパウロ市から約30キロ）主催の「花まつり」で昨年に続き出演。

イベント会場には、各種施設や花の展示即売会場、民芸品、食べ物コーナー、ショーの舞台と公園や池がある。

ショーは、コーラス、太鼓、武道、踊りなどで、雷神グループは3部に分かれ太鼓を披露、来場者の大喝采を浴びた。

同市は、昔インディオの集落だった所で、民芸品、昔ながらの分厚い家具類が並んでいる。近郊一帯は日本人移住者が農業面で活躍した土地で、今でも多く在住している。



Dreams Come True

ニューヨーク・大連・サンパウロetc...世界10カ国
二戸の酒米「ざんおとめ」で迎えられる
二戸の地酒 南部美人は世界へはばたく。

南部美人を飲むサンパウロの店
●Jun Sakamoto TEL. 3088-6019
●A-1 TEL. 3145-1833

南部美人
株式会社南部美人
岩手県二戸市権田字上町13
TEL. 0195-23-3133
FAX. 0195-23-4713
E-mail: sake@nanbujin.co.jp
ホームページもご覧
http://www.nanbujin.co.jp
●お酒は20歳になってから

- 9月2日 第24回東北6県・北海道親睦演芸祭が宮城県人会会館で行われ、総合優勝に秋田県、2位が岩手県であった。
- 4 高橋勇一郎氏（滝沢村出身・長野在）から葉書。
- 5 県国際課矢羽々有主事より県人会50周年について問い合わせ。
- 7 創立50周年費用捻出募金要請に、千田、藤村副会長で地方を回る。
- 8 定例役員会開催 今後の行事、50周年招待状の作製・募金について、杉村公使墓碑改修など
- 10 県国際課矢羽々主事へ芸能関係について送信。
- 13 県国際課矢羽々主事宛、県人会50周年予算案をメールとファックスで送信。
- ☆ 岩崎NY会長から県人会サミットについて受信。
- 14 ベレン日系商工会議所から山中正二氏の山本喜誉司賞推薦状を同選考委員会に届ける。
- 17 遠野の佐々木栄洋氏から図書「岩手の歴史散歩」3冊の送付あり。
- ☆ 矢羽々国際課主事に県人会50周年について送信。
- ☆ 杉村新氏へ墓碑改修についてFAX送信。
- 20 国際課佐々木健総括課長より「岩手親善大使」の活動状況や情報お願い。「さんさ踊り」の写真受信。
- 25 アヴァレー周遊・キロンボ温泉旅行に34名が参加。
- 28 河北新報社（宮城県）加賀山記者から岩手関係者の取材協力の依頼あり。
- ☆ 県庁の北柄主任より、県人移住者古屋敷修資さん（コチア青年で移住・病死）のお墓などの調査依頼。
- 30 岩手太鼓グループ「雷神」は、エンブー市花まつりで演奏。
- 10月1日 会報153号を会員、賛助会員、県関係者、海外県人会、コロンビア関係団体へ発送。
- ☆ 海外県人会育成補助の契約書を県庁へ送付。
- 2 県庁からの古屋敷修資さんについて依頼の記事サンパウロ新聞掲載。
- 3 杉村延広氏に杉村公使のお墓改修について連絡。
- 4 杉村新氏より公使のお墓改修についての連絡あり。
- ☆ 田鎖満氏訪日の為、県庁へことづけを依頼。
- 8 山中芳光夫妻（葛巻町在）来館（山中ベレン県人会長の兄）。訪問者記事参照。
- 9 杉村新氏より同家の家紋確認メール受信。

- ☆ 吉田恭子さんから県人会50周年訪伯について受信。
- ☆ 県庁の矢羽々氏から、移住功労者、民謡使節派遣についてメール受信。
- ☆ 世界旅行中の川崎義晴さん（釜石市在）が来館し懇談する。
- 13 10月度役員会開催。議題は温泉旅行報告、県補助、行事、50周年進行状況など。
- 15 会費未納者へ振込用紙（Boleto）を発送。
- 17 花巻市役所観光交流課の布臺一郎氏より、移民100周年式典に皇太子様ご臨席の報道があった旨便り。
- 18 県国際課佐々木総括課長あて、岩手親善大使活動レポートを送信。
- 21 大分県人会（永松通一会長）55周年記念式典に千田会長夫妻出席。
- ☆ 第1回雷神（太鼓グループ）の焼ソバ祭り開催。ブラジル人の参加もありショーなどで賑わった。
- 22 三枝たか子先生と貞広昌理先生（JICAシニアボランティア）来館し懇談。
- 23 みちのく句会に出席した菅原貞一郎氏来館し懇談。
- 24 杉村新氏、リオの鹿田氏へ墓碑改修案を送信。
- 26 酒・南部美人の久慈氏、岩崎ニューヨーク県人会長からメール受信。
- 27 宮古市の嶋田広海さん（趣味はモルルス無線通信）から、ブラジル県人会をHPで知ったとメール。
- 29 増田寛也総務大臣（前岩手県知事）より、大臣就任祝電への礼状あり。
- ☆ 武藤アスンション会長から50周年に期待とメール。
- 30 ニッケイ新聞「雷神太鼓焼ソバ祭り」記事掲載。
- 31 サンパウロ新聞「焼ソバ祭り」の記事掲載。
- ☆ 第37回山本喜誉司賞に、ベレン県人会の山中正二氏ら4名が受賞者に選ばれる。

「お詫び」「会報の遅れ」諸事により今回の会報も合併号となりました。ご容赦下さい。

「ポルトガル語教室」の記事中、宇佐美克己先生の携帯電話番号は、9990-4727でした。

寄付・寄贈（9・10月）敬称略

佐々木憲輔-お茶菓子、図書利用者多数-お茶菓子、高橋典克（北上市・賛助）50周年特別-1万円、山中芳光-2万円（R\$326,00）

会費納入者名（9・10月）敬称略

宇佐見克己（新・賛助・二世）、宮城義晴（新・賛助・東京）、千田吉太郎（新・北上市江釣子出身）、及川信子、三原寿紀（賛）、高山フジ、菅原貞一郎、昆野ヤエ、佐々木久六、高橋エイコ、寺田雪江（賛）、片岡陽子、唐沢みつこイザウラ、久保和子（累計157名）

賛助会費納入者名（9・10月敬称略）

斉藤 好弘、和賀武耕、佐藤節夫、紀タツ子、千田功平、千田良子、及川光夫、高橋典克、工藤政二、熊谷澄子、武藤千賀子、高橋洋介、久慈浩介、一戸和、坂下亭、増田稲子、
「ブラジル県人会賛助会費」のご納入は郵便振替口座へお願い致します。
郵便振替 口座番号 02260-0-39490
加入者名 財団法人岩手県国際交流協会

「図書寄贈」（9月10月・敬称略）佐々木栄洋（岩手）3冊、宮下茂6冊、橋本敏郎 16冊、加藤進 1冊、柴美智子 7冊、佐々木寛一 2冊、岩松求 4冊、安岡ゆきえ 25冊、和田司 15冊、横山幹 13冊、梓貴慶郎 1冊、浅路幸夫 3冊、岩松求 4冊、細谷ケイコ 4冊、松山幹人 6冊、宮城義晴 3冊、熊谷澄子（岩手）3冊、安田稔 3冊、（合計110冊）

県人会図書利用

9月 204名 762冊
10月 267名 1145冊



岩手からの訪問者

10月8日葛巻在の山中芳光夫妻が、弟のベレン市の県人会長山中正二氏（岩手町出身）を訪問するため、県人会へ来館。葛巻出身の大崎孝幸氏（1961年渡伯）を交えて懐かしい故郷を語り合った。



右から山中氏、夫人、大崎氏
後列は千田会長、藤村副会長

夕刻ご夫妻を囲んで夕食会を有志で行った。ご夫妻はドラマ「ハルとナツ」の撮影舞台となった東山農場、イグアスー、リオデジャネイロを経てベレン入りの予定。



川崎さん

10月9日釜石市在の川崎義晴さん（31歳）が、県人会を訪問懇談した。川崎さんは世界旅行中でチリから南米入り、アルゼンチンを経てブラジル入りした。

今後、パラグアイをはじめ 南米を縦断し最終目的地はロス・カニョー・ニューヨークとの事。翌10日藤村副会長が野球の練習に誘った。

父娘二人旅

文 畑勝喜・カメラ 畑カリーナ真樹



ワコゼの恐ろしい顔

「迫力満点の面魂・怪魚ワコゼ」

井上住職の案内で「平家茶屋」に入った。大きな生簀（いけす）の中に、今朝釣り上げたばかりという2尾の茶褐色をしたワコゼが入っていた。私たちは若戸大橋と関門海峡の大パノラマが見られる座敷に通され、ほどなく先程見たワコゼが〈生き造り〉となって出て来た。フグの刺身を思わせる薄く捌かれた白身が皿に盛られている。ところがである。その大皿の一角にワコゼの兜（かぶと＝頭の事）が鎮座している。その形相たるや、とても此の世のものとは思えない醜い面魂なのである。魚体全体が鎧兜で覆われていて、ブラジルのカスケードが可愛く思えてしまう程、北九州産のワコゼの醜さはハンパではない。〈生き造り〉だから当然なのだが、ブラジル生まれの我が娘は、身はずされた魚がまだ生きていとは思っていなかったのだろう。この醜い顔のアップの写真を撮ろうと寄った瞬間ワコゼが大きな口を開け、大きな目をカッと見開いたからたまらない。娘はギャツと叫んでカメラを離してしまった。従ってこのワコゼの決定的瞬間の写真を、皆さんにお見せ出来ないのが残念である。

しかし、表面のグロテスクさに較べ身は淡白で美味しく、珍味というべき一品であった。この他、飲む前に一儀式があるフグの鱈酒（ひれざけ）等、御当地ならではの新鮮な海の幸を御馳走になり、6年ぶりの井上和尚さんのニコニコ顔と、今様平安美人に注いで頂く美酒に至福の一時を過ごしたのであった。それにしても、あの鬼の形相をし、背びれに毒を持つ魚を、人類として最初に食べた人間の勇氣に、心より敬意を表したい。

「渦巻く関門海峡と壇の浦の戦い」

「平家茶屋」から見る若戸大橋は、とてつもなく高い場所に架かっている様に見える。全長2068m、吊橋の部分だけでも680mあり、1962年の完成当時は東洋一の吊橋といわれ、この橋の開通により本州と九州の物流に大変化をもたらした。

料亭のあるこの場所は早瀬瀬戸（はやとものせと）と呼ばれる関門海峡で最も狭い海域で、はっきりなしに大型船・小型船が行き交っているが、今を去る事822年前、平安時代後期の文治元年（西暦1185年）3月24日、源氏と平家の間で「壇の浦の戦い」と云われる大海戦が行われたところなのだ。三浦義澄を先鋒とした、平知盛の平家軍の戦いは、潮流に乗り切れなかった平家軍が敗れ、安徳天皇をはじめとする平家の一門は、入水（じゅすい）や捕虜となり、栄華を極めた平家は滅び、源氏の時代に移っていったのである。

海峡を流れる水は秒速4mという急潮流で、大きな渦を巻きながら流

れてゆく。

私の独断と偏見に満ちた推測からすると、今の私の身体の中にあるのと同じDNA（遺伝子）を持ったご先祖さまが、この戦いを機に長い歳月をかけて裏日本伝いに近江国（現滋賀県）辺りまで逃れたのだと思っている。この根拠は改めて別の稿で述べたい。

「光圓寺」

光圓寺に泊めて頂いた翌朝、私はうぐいすの声で目が覚めた。障子越しにやわらかな陽光が畳の上に差し込んでいる。正に日本の朝の光景である。

「昔は、あの山の頂上まで寺領だった」と語る井上住職の指さす先を見ると、朝日が当たって黄緑色に輝く山肌が、はるか山の頂まで続いていた。今でも光圓寺は広い敷地に本堂をはじめ各建物がゆったりと建ち、歴史の古さを物語るばかりでなく、絶えず前進を心掛ける井上住職は、エキゾチックな外観の会館の建設にも着手しており、訪ねた日も朝から建設機械がうなりを上げていた。この日は、午前11時20分の便で福岡空港から沖縄へ飛ぶスケジュール。ご家族に別れを告げ、ご住職自ら運転する車で福岡国際空港まで送って頂いた。

「近代的な福岡国際空港」

近代的で4つも旅客ターミナルビルを持つこの空港の年間旅客数は217万人と、日本で4番目の規模を誇り、国際線と国内線の旅客ターミナルが滑走路をはさんで、全く反対側に建つという、珍しいレイアウトになっている。それにしても、博多の中心から地下鉄で2駅、6分という地の利を生かした便利な空港ではある。これは東北ブラジル、セアラ州の州都フォルタレーザにあるピント・マルチンス空港と良く似た環境にある。市の中心から車で20分位の場所にあり、大西洋があり市街があり、空港がある。



北九州の光圓寺

何となく福岡空港と似ていないだろうか。因みにフォルタレーザの海は伊勢エビとカニの一大宝庫である。ところで、私が初めて福岡空港を利用したのは1958年頃の事。当時、空港の大半を米空軍が使用しジェット戦闘機が、ものすごい轟音を響かせて離着陸の訓練を繰り返していた。日本の民間航空機はその飛行場の片隅を使わせて貰っているような状態で、双発の古いプロペラ機が遠慮しながら降りてくる・・・といった案配。待合室も粗末な建物だったと記憶している。何しろ博多駅前に雑多な屋台が並び、猿廻しの猿が芸を見せてなにがしかの金を貰っていた、そんな時代であった。あれから半世紀。立派な福岡空港のターミナルビルのロビーに、自分がいる。しかも来年結婚しようという娘と一緒に。時の経つその早さに驚く。夢のようである。

「・・・那覇空港へのお客様、搭乗ゲートの前へおすすみ下さいませ・・・」アナウンスに促され井上博厚師と裕子さんに感謝しつつ、より深い思い出の地となった九州を後にしたのである。

（つづく）

IMPRESSO



ます。
本州最東端の「トウケ崎」灯台は、1902年に建てられ映画「喜びも悲しみ
も幾年月」の舞台として、灯台守夫婦の物語で有名になった。

宮古港は、外海から遮へいされた天然の良港で、古くから避難港、北海道
への松前廻船などの寄港地として利用され、沖合には三陸漁場を持つ漁場基
地として栄え、本州一の水揚げを誇るサケはしめサケ、アツビ、ウニ、フ
カメ、昆布など四季折々の旬の味覚が宮古港に水揚げされ、全国に届けられ

東端の町。名勝「浄土ヶ浜」など、奇岩、断崖がおりなすリアス式海岸が美
しい景勝地です。
宮古市は、陸中海岸国立公園のほぼ中央部に位置し、面積約697km²平方人口
は約6万人。市は旧田老町、新里村と合併し現在の宮古市を形成し、本州最

(www : city.miyako.iwate.jp) (ド)

宮古市
みやこし



Associação Cultural e Assistencial Iwate Kenjinkai do Brasil

ブラジル岩手県人会

RUA THOMAZ GONZAGA, 95-M - CEP 01506-020 - LIBERDADE - SÃO PAULO - BRASIL

TEL/FAX (11) 3207-2383

www.iwate.org.br - e-mail: iwate@iwate.org.br

※ ブラジル岩手県人会ニュース 2007年11月発行 154号